

7. 閉会挨拶

福岡県保健医療介護部薬務課 薬務課長 市村 清隆

福岡県薬務課の市村でございます。

この輸血合同療法委員会の開催にあたりまして準備に携わっていただきました代表世話人である熊川先生、それから世話人の先生方、そして本日で講演いただきました先生方、本当にありがとうございました。

また今日の講演にもありましたが、新型コロナウイルス感染症は第6波も非常に猛威を奮っておりまして、少しピークアウトの兆しはあるものの、非常に厳しい状況が続いております。本日はコロナ対応を担っていただいている多数の医療機関の皆さま方にご参加いただいております、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

県におきましても、非常に保健所の業務がひっ迫しておりまして、私ども保健医療介護部の本庁の職員も、保健所の応援に行っておりまして、私も3度ほど行きましたが、薬務課の職員も交代で応援に行っている状況が続いております。

臨床現場の先生方に置かれましても非常に厳しい状況が続いているかと思いますが、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の講演等を振り返ってみますと、赤十字血液センターさんからコロナ禍における献血者確保の問題、それから全国で広範囲に需給調整をやっていただくなど、非常に厳しい中で頑張っていたというお話もありました。私自身も献血をライフワークにしておりまして、先週もキャナルシティの献血ルームで239回目の献血をさせていただきましたが、今後もしっかりやろうという決意を新たにいたしましたところでございます。

また、和白病院の中島先生から、病院としての献血の協力であったり、コロナの患者さんへ血液製剤を非常に有効に使用されているというお話もございました。また石倉先生のほうから、画像も交えて最先端でのコロナ治療の実践についてお話いただきまして、本日お聞きになられた臨床現場の皆さま方にとっても、非常に貴重で有意義なお話になったのではないかと思います。

県の合同輸血療法委員会の活動でございますが、今日は聖マリア病院の大崎先生から非常に分かりやすくアンケート結果の解説をいただきました。お陰さまで本県の取り組みは非常に他県よりも先進的な取り組みをしていただいていると思います。輸血療法の適正化、血液製剤を有効に使う、無駄をなくすという観点で、非常に有意義な活動をしていただいております、感謝申し上げます。

福岡県といたしましても、輸血合同療法委員会の取り組みを今後も引き続き進めていきたいと思っておりますし、また若年者の献血の確保についてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。皆さま方合同輸血療法委員会の世話人の先生方をはじめ、本日で参加の臨床現場の皆さま方もぜひご協力をいただきますようお願い申し上げます、私の閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。